

第2章 店舗形態別価格

この章では、構造編の店舗形態別価格調査^(注1)等から得た情報を基に特別集計した結果を用いて、第1節及び第2節では店舗形態別の価格水準、第3節では店舗形態別の価格分布の状況、第4節では店舗形態別の価格の動きについて、それぞれ解説する。

(注1) 構造編の店舗形態別価格調査は、スーパー・一般小売店・量販専門店などの店舗形態の違いによる価格の違いを把握するため、全国の道府県庁所在市(46市)において小売価格を調査している(東京都は、動向編において様々な店舗形態の価格が得られているため、構造編では調査を行っていない)。

調査品目は、比較対象となる各店舗形態において価格調査が可能な品目の中から、9品目を選定している。

集計においては、構造編の調査価格に加え、動向編で調査している全ての道府県庁所在市の店舗の価格も利用している。構造編の店舗形態別価格調査の調査店舗の選定は、比較対象となる各店舗形態が原則同数となるように行っている。例えば、食料品の場合、スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査を行っており、動向編では主にスーパーを選定しているため、構造編では原則として一般小売店を選定している。

1 スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及び清酒はスーパーの価格が低い
- ◆ 豚肉は一般小売店の価格が低い

スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査している4品目(うるち米^(注2)、豚肉^(注3)、コロッケ及び清酒)の年平均価格^(注4)をみると、うるち米、コロッケ及び清酒は、スーパーの価格が低くなっている。一方、豚肉は一般小売店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格を100として一般小売店の価格水準をみると、コロッケ(121.0)の水準の差が最も大きくなっている。

2018年(平成30年)結果と比較すると、4品目全てにおいて価格水準の差が拡大している。拡大した要因は、うるち米、コロッケ及び清酒は、価格水準が高い一般小売店の価格の上昇率が、価格水準が低いスーパーの価格の上昇率を上回ったことによる。豚肉は、価格水準が高いスーパーの価格の上昇率が、価格水準が低い一般小売店の価格の上昇率を上回ったことによる。

(表2-1, 図2-1)

(注2) うるち米は、単一原料米(コシヒカリ以外)を調査している。

(注3) 豚肉は、バラ(黒豚を除く)を調査している。

(注4) 全都道府県庁所在市(全47市、東京都については東京都区部)の年平均価格

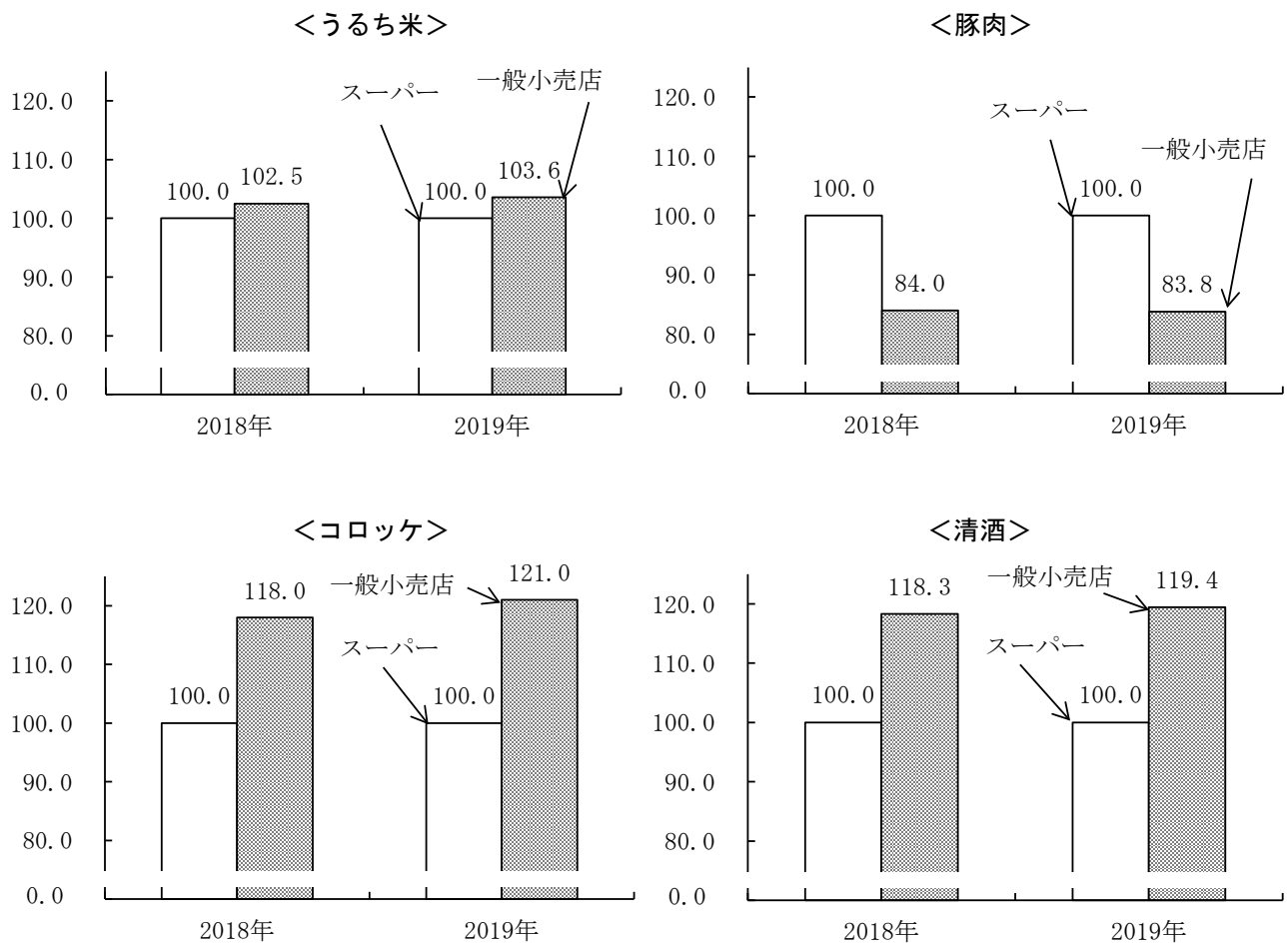
表 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

品目 (単位)	店舗形態	2019年			2018年			2018年との比較 (2019年-2018年)	
		年平均 価格 (円)	価格 水準 (注5)	価格水準 の差 (注6)	年平均 価格 (円)	価格 水準 (注5)	価格水準 の差 (注6)	年平均 価格の 変化 (円)	年平均 価格の 変化率 (%)
うるち米 (1袋(5kg))	スーパー	2,146	100.0	-3.6	2,138	100.0	-2.5	8	0.4
	一般小売店	2,224	103.6		2,192	102.5		32	1.5
豚肉 (100g)	スーパー	240	100.0	16.3	237	100.0	16.0	3	1.3
	一般小売店	201	83.8		199	84.0		2	1.0
コロッケ (100g)	スーパー	100	100.0	-21.0	100	100.0	-18.0	0	0.0
	一般小売店	121	121.0		118	118.0		3	2.5
清酒 (1本(2,000mL))	スーパー	990	100.0	-19.4	994	100.0	-18.3	-4	-0.4
	一般小売店	1,182	119.4		1,176	118.3		6	0.5

(注5) 価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を100とした際の値

(注6) 価格水準の差=「スーパー」の価格水準-「一般小売店」の価格水準

図 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別価格水準 (スーパーの年平均価格=100)



2 スーパーと量販専門店の比較

- ◆ ラップ及び生理用ナプキンはスーパーの価格が低い
- ◆ ドリンク剤及び整髪料は量販専門店の価格が低い
- ◆ 洗濯用洗剤はスーパーと量販専門店の間に価格差はない

スーパーと量販専門店の価格差を比較することを目的として調査している5品目（ラップ、洗濯用洗剤、ドリンク剤、生理用ナプキン及び整髪料）の年平均価格^(注7)をみると、ラップ及び生理用ナプキンは、スーパーの価格が低くなっている。一方、ドリンク剤及び整髪料は量販専門店の価格が低くなっている。なお、洗濯用洗剤はスーパーと量販専門店の間に価格差はない。

また、スーパーの年平均価格を100として量販専門店の価格水準をみると、ドリンク剤が91.8と最も水準の差が大きく、次いで整髪料（95.8）となっている。

2018年結果と比較すると、洗濯用洗剤及びドリンク剤では価格水準の差が縮小している。縮小した要因は、価格水準が低い量販専門店の価格の上昇率が、価格水準が高いスーパーの価格の上昇率を上回ったことによる。

一方、整髪料では価格水準の差が拡大している。拡大した要因は、価格水準が高いスーパーの価格の上昇率が、価格水準が低い量販専門店の価格の上昇率を上回ったことによる。

なお、生理用ナプキンの価格水準は、2018年ではスーパーの方が高かったが、2019年では量販専門店の方が高くなっている。

（表2-2、図2-2）

（注7）全都道府県庁所在市（全47市、東京都については東京都区部）の年平均価格

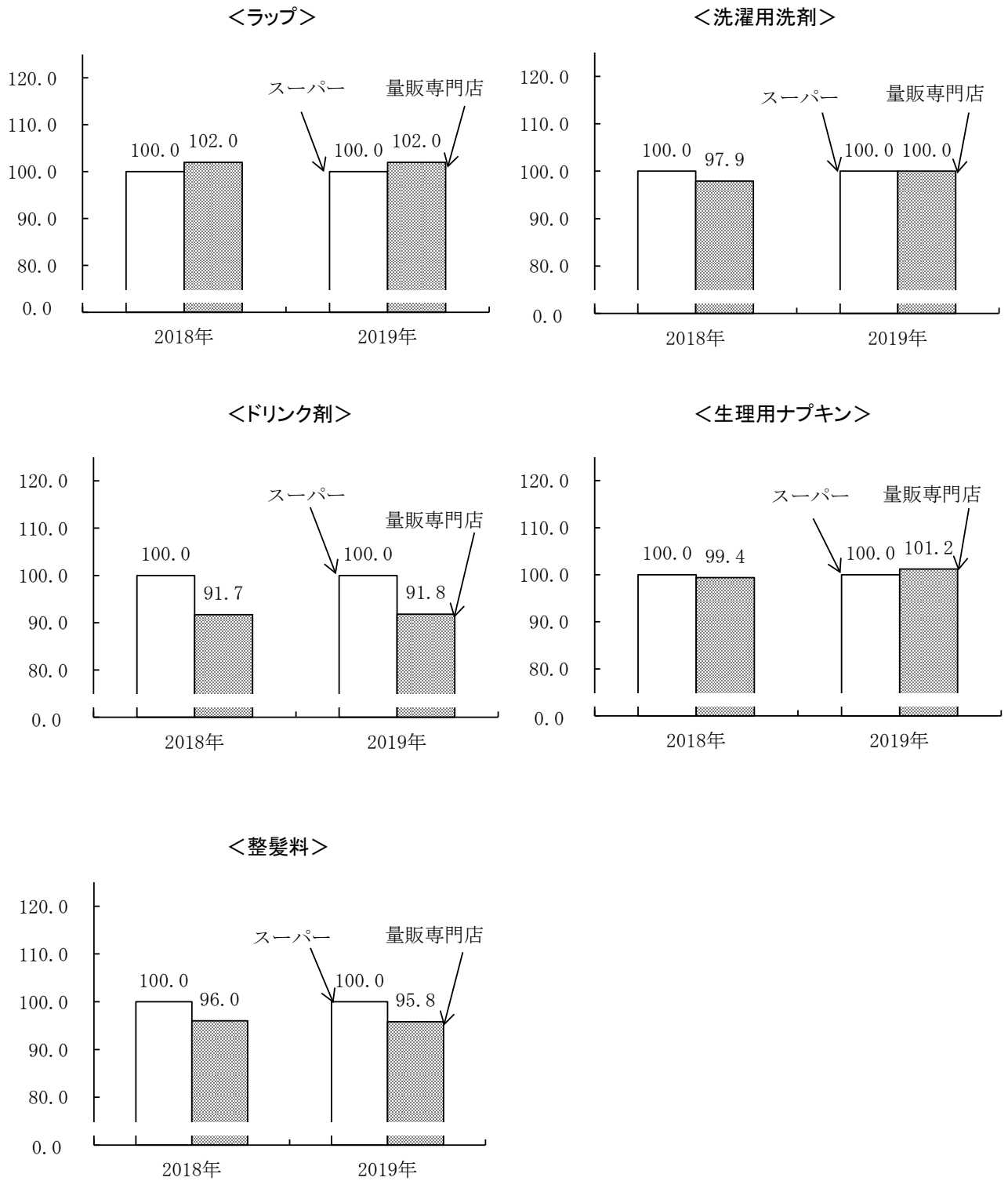
表2-2 調査対象5品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

品目（単位）	店舗形態	2019年			2018年			2018年との比較 (2019年-2018年)	
		年平均 価格 (円)	価格 水準 (注8)	価格水準 の差 (注9)	年平均 価格 (円)	価格 水準 (注8)	価格水準 の差 (注9)	年平均 価格の 変化 (円)	年平均 価格の 変化率 (%)
ラップ (1本(幅22cm×長さ50m))	スーパー	302	100.0	-2.0	300	100.0	-2.0	2	0.7
	量販専門店	308	102.0		306	102.0		2	0.7
洗濯用洗剤 (1kg(液体))	スーパー	299	100.0	0.0	292	100.0	2.1	7	2.4
	量販専門店	299	100.0		286	97.9		13	4.5
ドリンク剤 (1箱(100mL×10本))	スーパー	1,099	100.0	8.2	1,089	100.0	8.3	10	0.9
	量販専門店	1,009	91.8		999	91.7		10	1.0
生理用ナプキン (昼用, 10個)	スーパー	170	100.0	-1.2	169	100.0	0.6	1	0.6
	量販専門店	172	101.2		168	99.4		4	2.4
整髪料 (1個(80g))	スーパー	731	100.0	4.2	723	100.0	4.0	8	1.1
	量販専門店	700	95.8		694	96.0		6	0.9

（注8）価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を100とした際の値

（注9）価格水準の差＝「スーパー」の価格水準－「量販専門店」の価格水準

図2-2 調査対象5品目の店舗形態別価格水準（スーパーの年平均価格=100）



3 価格分布の状況について

ここでは、2019年（令和元年）に調査した店舗の価格情報を利用して価格分布（10%点、25%点、50%点、75%点及び90%点）及びその他の統計量（「(参考)用語の説明」191ページを参照）に関する特別集計の結果について紹介する。

なお、年の途中で銘柄改正を行った場合は、改正月以降の月に限定して集計している。

(1) スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及び清酒は、スーパーに比べ一般小売店の価格の広がりが大きい
- ◆ コロッケは、スーパー、一般小売店共に価格の散らばり度合いが最も大きい

スーパーと一般小売店の比較を目的とした4品目について、それぞれ店舗形態別に10%点、25%点、50%点、75%点、90%点の価格を比較することにより、店舗形態別の価格分布の状況を見る。

うるち米は、10%点を除いては、一般小売店の価格がスーパーの価格よりも高くなっている。

豚肉は、いずれの%点においても一般小売店の価格がスーパーの価格よりも低くなっている。

コロッケ及び清酒は、いずれの%点においても一般小売店の価格がスーパーの価格よりも高くなっている。

次に、四分位範囲により価格の広がりをみると、豚肉以外の品目において、スーパーに比べ一般小売店が大きくなっている。

(表2-3, 図2-3)

さらに、四分位分散係数により店舗形態別に各品目の価格の散らばり度合いを比較すると、スーパーでは、コロッケが最も大きく、うるち米及び清酒が小さくなっている。一般小売店では、コロッケが最も大きく、うるち米が最も小さくなっている。

(表2-3, 図2-4)

表2-3 調査対象4品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	うるち米 (単位：1袋)		豚肉 (単位：100g)		コロッケ (単位：100g)		清酒 (単位：1本)	
	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店
価格数	1,773	1,095	1,748	1,136	1,742	1,135	1,075	781
平均価格(円)	2,164	2,229	240	202	101	121	996	1,178
90%点(円)	2,462	2,600	278	259	127	167	1,089	1,419
75%点(円)	2,247	2,400	266	220	115	143	1,023	1,300
50%点(円)	2,138	2,200	242	198	102	118	969	1,166
25%点(円)	2,030	2,050	213	180	91	98	934	1,037
10%点(円)	1,922	1,900	203	159	69	82	905	940
四分位範囲(円)	217	350	53	40	24	45	89	263
四分位分散係数	0.05	0.08	0.11	0.10	0.12	0.19	0.05	0.11

※ 各統計量の算出方法は、後述の「(参考)用語の説明」を参照

※ 特別集計における平均価格は、2019年（令和元年）の偶数月に調査した店舗の価格を単純算術平均したものである。

そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

図 2-3 調査対象 4 品目の店舗形態別価格分布図

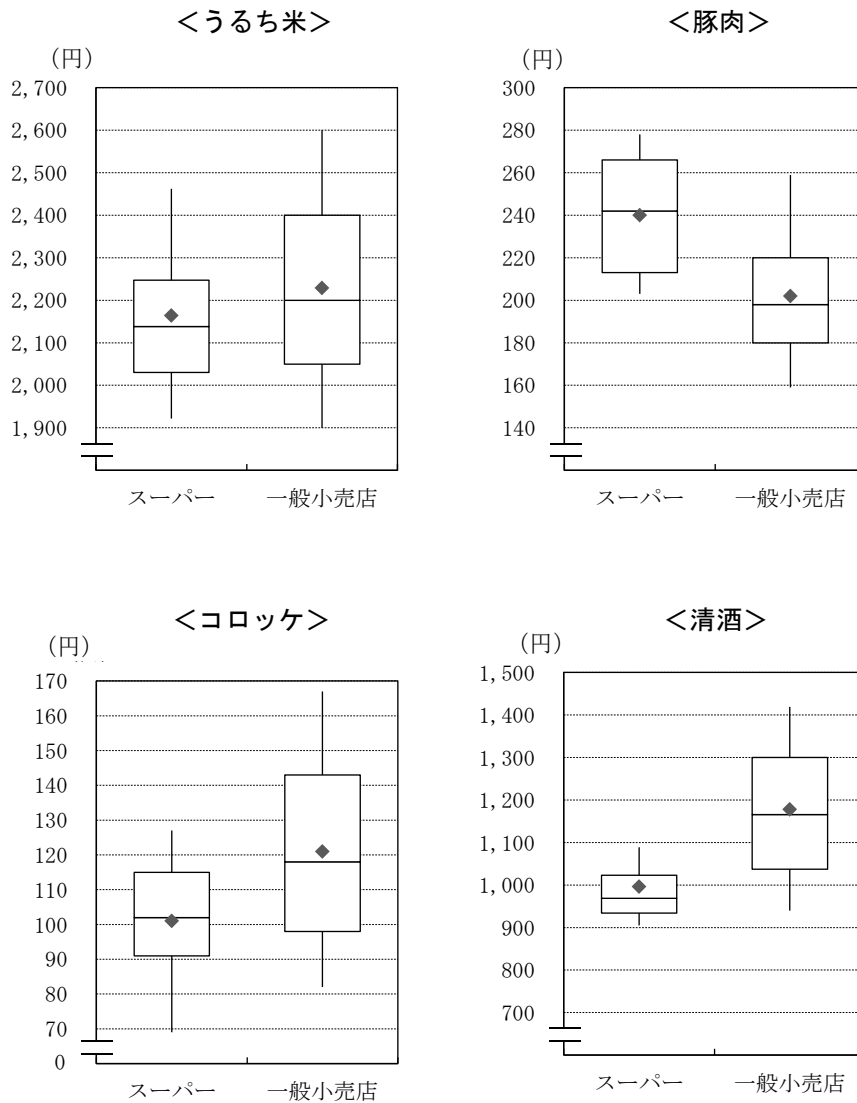
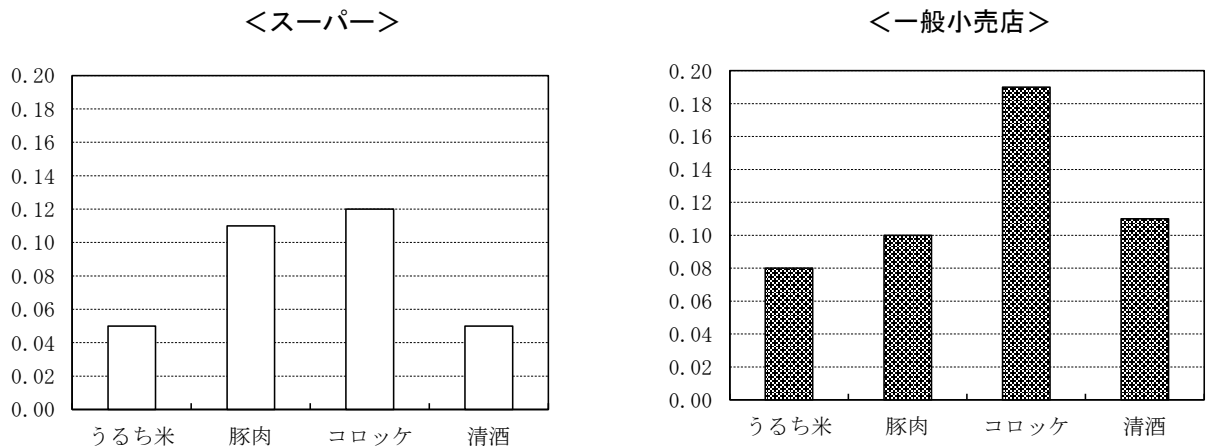


図 2-4 調査対象 4 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



(2) スーパーと量販専門店の比較

- ◆ 生理用ナプキンは、スーパーに比べ量販専門店の価格の広がりが大きい
- ◆ 洗濯用洗剤は、スーパー、量販専門店共に価格の散らばり度合いが最も大きい

次に、スーパーと量販専門店の比較を目的とした5品目について、店舗形態別の価格分布の状況を見る。

ラップは、10%点を除いては、スーパーに比べ量販専門店の価格が高くなっている。

洗濯用洗剤は、75%点の価格がスーパーと量販専門店とで一致しているなど、似た分布状況となっている。

ドリンク剤は、いずれの%点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が低くなっている。

生理用ナプキンは、10%点及び25%点の価格がスーパーと量販専門店とで一致しているが、それ以外のいずれの点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が高くなっている。

整髪料は、50%点の価格がスーパーと量販専門店とで一致しているが、それ以外のいずれの点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が低くなっている。

次に、四分位範囲により価格の広がりをみると、生理用ナプキンについてはスーパーに比べ量販専門店が大きく、ドリンク剤及び整髪料についてはスーパーに比べ量販専門店が小さくなっている。ラップ及び洗濯用洗剤については、スーパーと量販専門店とで同程度となっている。

(表2-4, 図2-5)

さらに、四分位分散係数により店舗形態別に各品目の価格の散らばり度合いを比較すると、スーパー、量販専門店共に、洗濯用洗剤が最も大きく、ドリンク剤が最も小さくなっている。

(表2-4, 図2-6)

表2-4 調査対象5品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	ラップ (単位: 1本)		洗濯用洗剤 (単位: 1kg)		ドリンク剤 (単位: 1箱)		生理用ナプキン (単位: 10個)		整髪料 (単位: 1個)	
	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店
価格数	1,511	1,379	1,540	1,349	939	917	1,003	923	961	967
平均価格(円)	301	308	298	301	1,095	1,008	171	173	729	698
90%点(円)	328	352	374	379	1,236	1,059	191	202	822	820
75%点(円)	311	321	344	344	1,131	1,035	180	188	808	731
50%点(円)	295	301	278	282	1,059	1,008	166	174	718	718
25%点(円)	278	289	253	255	1,026	998	161	161	689	646
10%点(円)	273	272	245	239	969	941	149	149	646	598
四分位範囲(円)	33	32	91	89	105	37	19	27	119	85
四分位分散係数	0.06	0.05	0.16	0.16	0.05	0.02	0.06	0.08	0.08	0.06

※ 各統計量の算出方法は、後述の「(参考)用語の説明」を参照

※ 特別集計における平均価格は、2019年(令和元年)の偶数月に調査した店舗の価格を単純算術平均したものである。そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

図 2-5 調査対象 5 品目の店舗形態別価格分布図

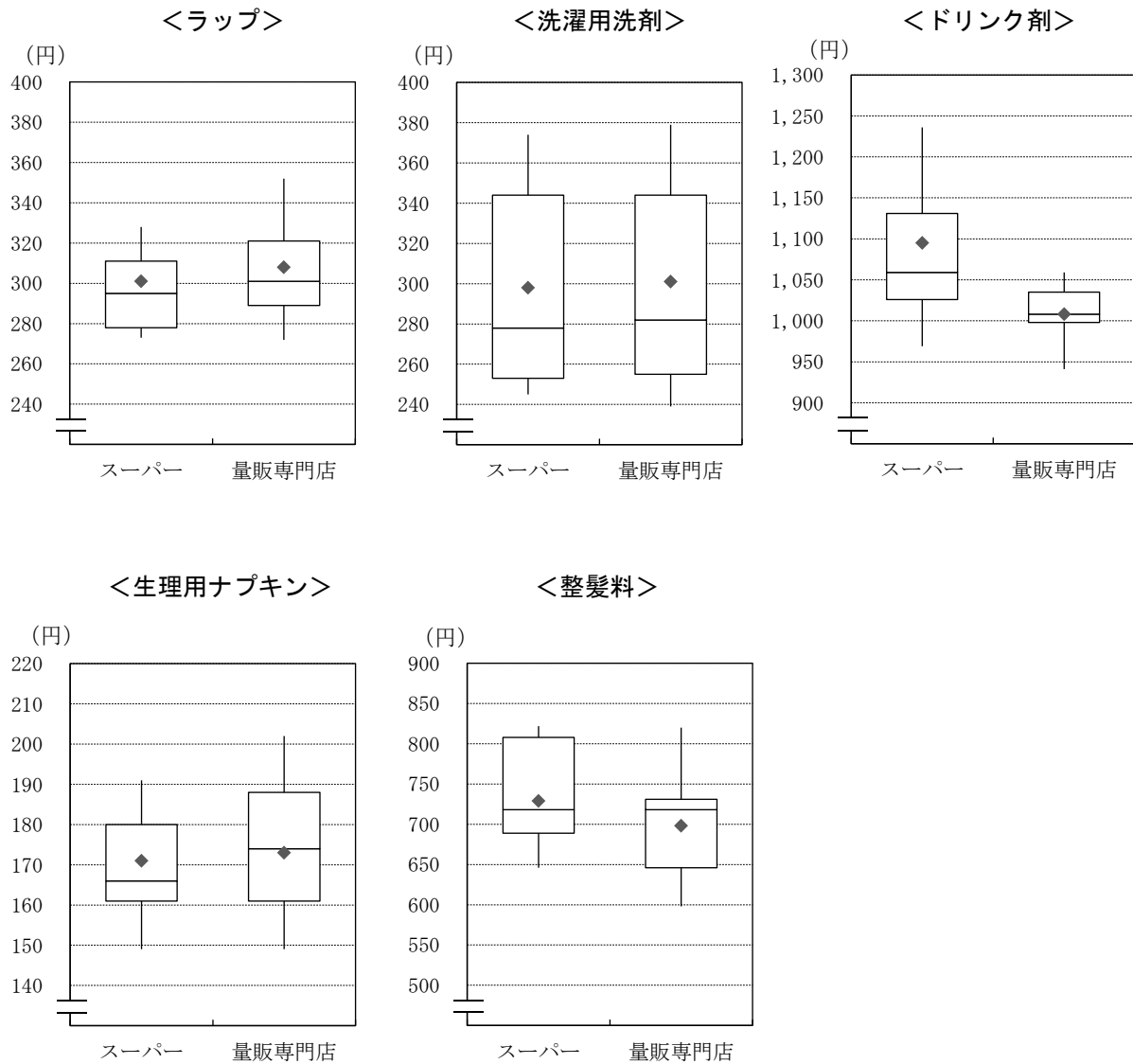
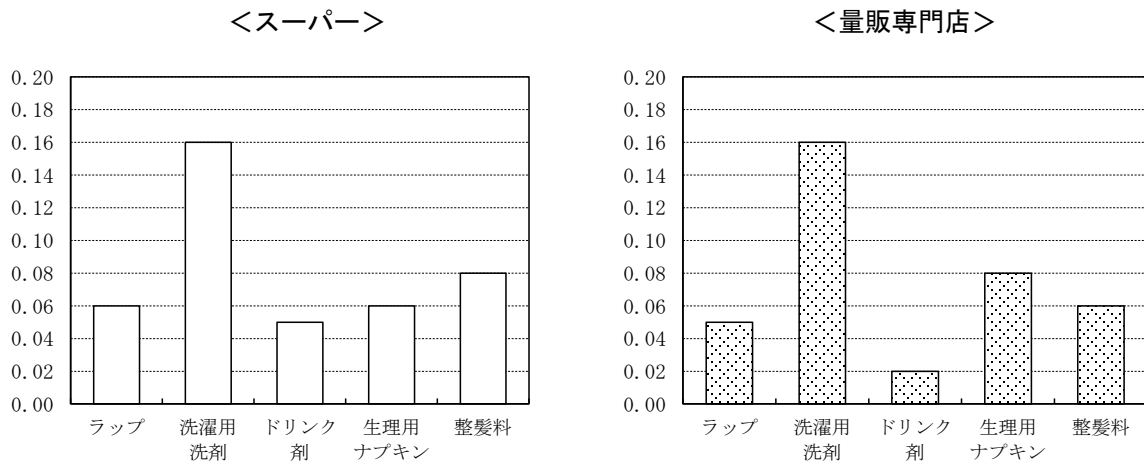


図 2-6 調査対象 5 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



(参考) 用語の説明

(1) 各統計量について

・ %点

調査された店舗の価格を価格の低い方から並べ、低い方から数えて25%、50%、75%に当たる点を25%点、50%点、75%点として求めている。25%点は第1四分位点、50%点は第2四分位点、75%点は第3四分位点という。

なお、今回の集計では、分布の全体的な状況を把握するため、10%点、90%点も求めている。

・ 四分位範囲

75%点（第3四分位点）と25%点（第1四分位点）の差をいう。

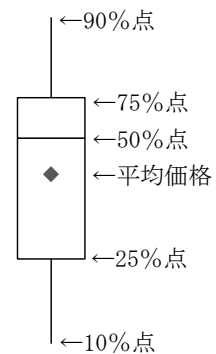
・ 四分位分散係数

四分位範囲の2分の1を求め、それを50%点で除した値。これにより、価格の散らばり度合いを品目間で比較することが可能となる。

(2) 価格分布図（右図）

平均価格や各%点の水準を視覚的に表したもの。価格の広がり、四分位範囲をみることで把握することができ、この差が小さければ価格の広がりが小さく、大きければ価格の広がりが大きいといえる。

なお、これらの点のうち、二つ又はそれ以上の点が一致することもあり得る。



4 店舗形態別の価格の動き

ここでは、各調査品目について、2015年2月^(注10)のスーパーの平均価格(全都道府県庁所在市の平均価格)を100として、そこから2019年12月までの期間について、各調査月(偶数月(2月, 4月, 6月, 8月, 10月及び12月))の平均価格を指数化し、店舗形態別の価格の動きを確認する。

(1) スーパーと一般小売店の比較

うるち米は、スーパー、一般小売店共に上昇傾向となっている。また、価格水準差^(注11)をみると、2015年8月のピーク以降、2018年4月頃まで縮小傾向にあったが、その後は拡大している。

豚肉は、スーパーについては2015年6月からほぼ横ばい、一般小売店については緩やかな上昇傾向で推移している。また、価格水準差をみると、2015年12月のピーク以降、ほぼ横ばいで推移している。

コロッケは、スーパー、一般小売店共に、緩やかな上昇傾向となっている。また、価格水準差をみると、2015年から2016年にかけてやや縮小しているが、その後は、一般小売店の上昇幅の方が大きいことから、拡大傾向で推移している。

清酒は、スーパーについては、2017年6月のピーク以降、下落傾向で推移していたが、2019年10月には消費税率引上げ(8%から10%)に伴う価格の上昇がみられた。一般小売店については、2017年4月の下落以降、緩やかな上昇傾向で推移していたが、2019年10月には消費税率の引上げに伴う価格の上昇が見られた。また、価格水準差をみると、2017年6月まで縮小しているが、その後は拡大傾向で推移している。

(図2-7)

(注10)「清酒」,「ラップ」及び「整髪料」は2017年2月,「生理用ナプキン」は2018年2月

(注11) 価格水準差=「一般小売店」の価格水準-「スーパー」の価格水準

図2-7 調査対象4品目の店舗形態別価格の動き

<うるち米>

(2015年2月のスーパーの平均価格=100)

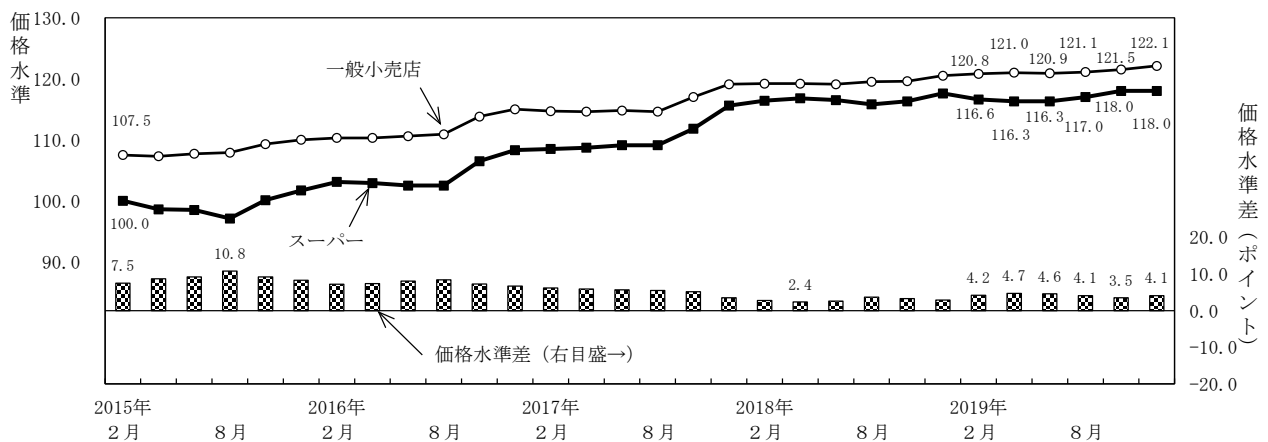
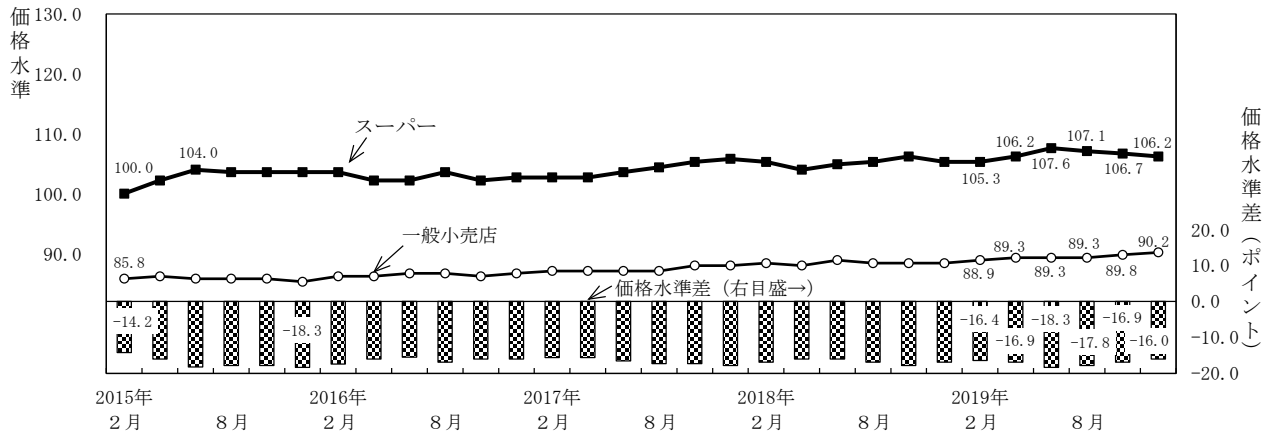


図2-7 調査対象4品目の店舗形態別価格の動き（続き）

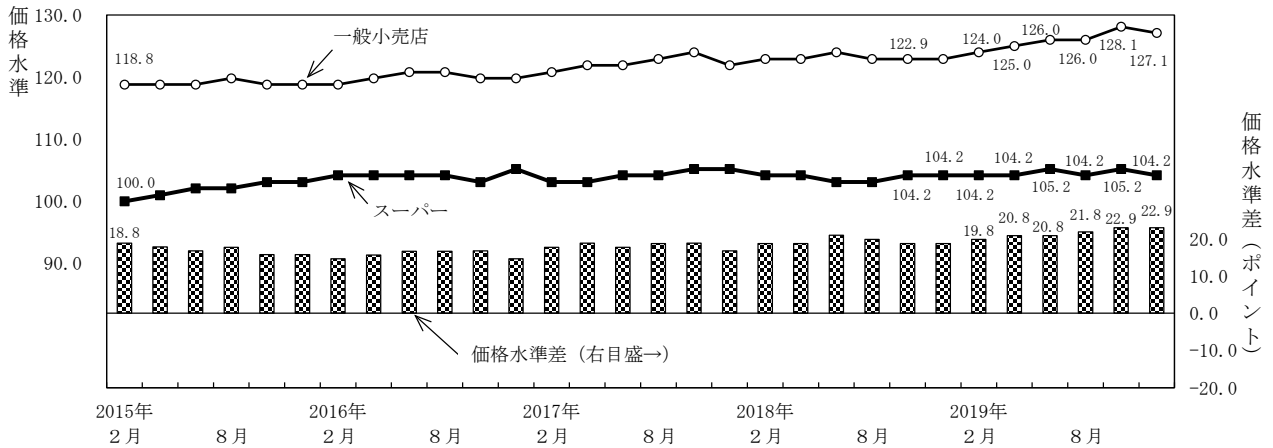
<豚肉>

(2015年2月のスーパーの平均価格=100)



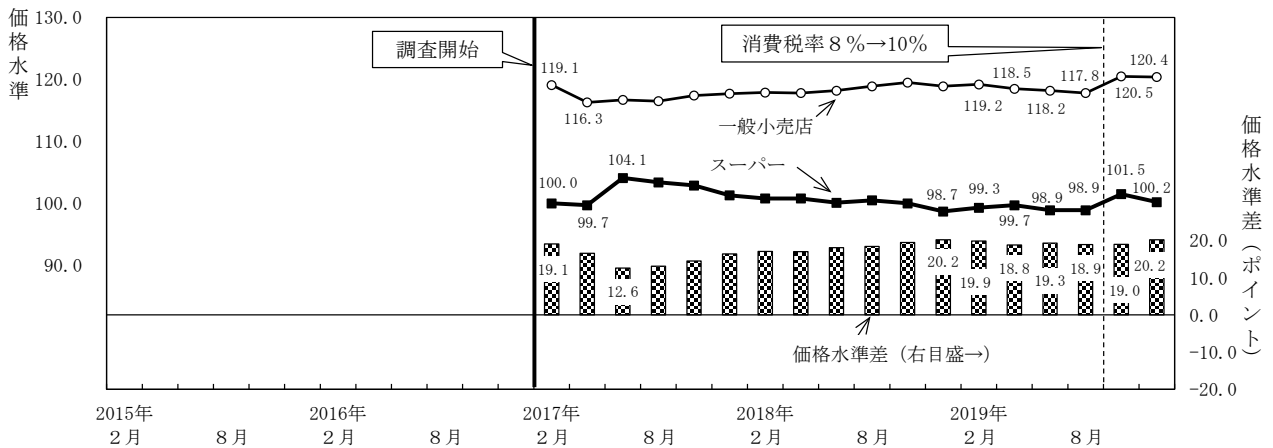
<コロッケ>

(2015年2月のスーパーの平均価格=100)



<清酒>

(2017年2月のスーパーの平均価格=100)



(2) スーパーと量販専門店の比較

ラップは、スーパー、量販専門店共に、小幅な変動はあるものの、ほぼ横ばいで推移しているが、2019年10月は消費税率引上げ（8%から10%）に伴う価格の上昇がみられた。また、価格水準差^(注12)をみると、価格の動きと同様に、ほぼ横ばいで推移している。

洗濯用洗剤は、スーパー、量販専門店共に、下降傾向で推移していたが、2019年2月頃から上昇傾向となっており、10月には消費税率引上げに伴う価格の上昇がみられたが、12月には上昇前の価格水準に戻っている。また、価格水準差をみると、2015年12月に-3.6ポイント^(注13)とやや拡大したが、その他の期間では比較的低い水準で推移している。

ドリンク剤は、スーパー、量販専門店共に、2019年10月の消費税率引上げに伴う価格の上昇を除くと、ほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差をみると、価格の動きと同様に、ほぼ横ばいで推移している。

生理用ナプキンは、スーパー、量販専門店共に、上昇傾向で推移しているが、2019年10月は消費税率引上げに伴う価格の上昇がみられた。また、価格水準差をみると、非常に低い水準で推移している。

整髪料は、スーパー、量販専門店共に、ほぼ横ばいで推移しているが、2019年10月には消費税率引上げに伴う価格の上昇がみられた。また、価格水準差をみると、価格の動きと同様に、ほぼ横ばいで推移している。

(図2-8)

(注12) 価格水準差 = 「量販専門店」の価格水準 - 「スーパー」の価格水準

(注13) マイナスの場合は、絶対値での最大値とする。

図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き

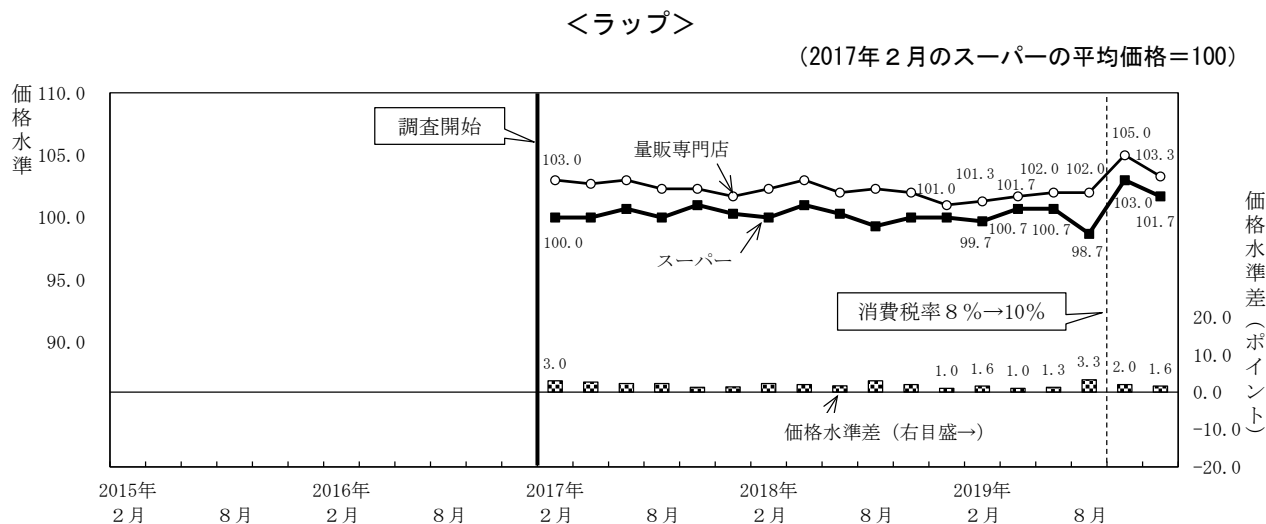
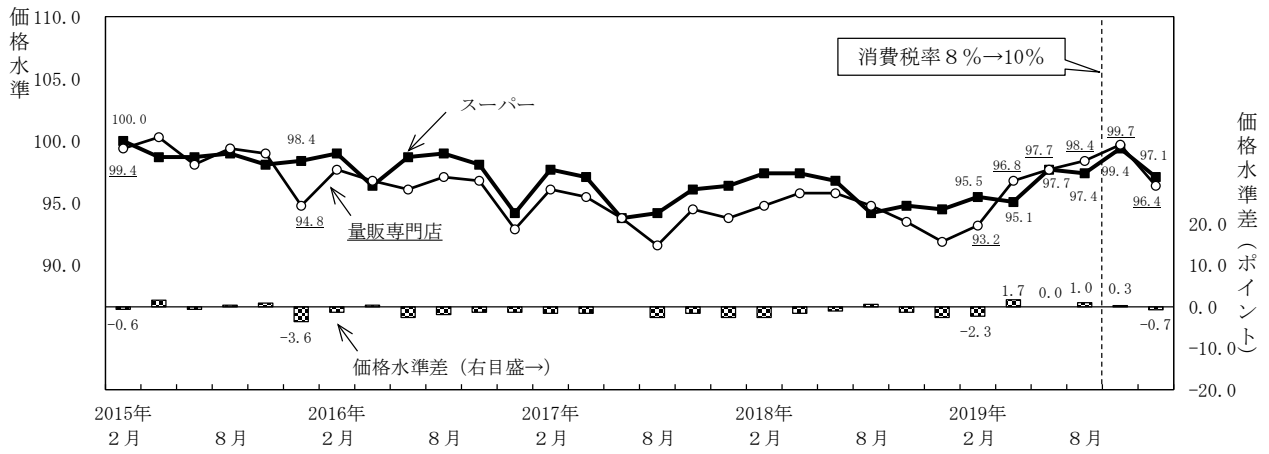


図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き (続き)

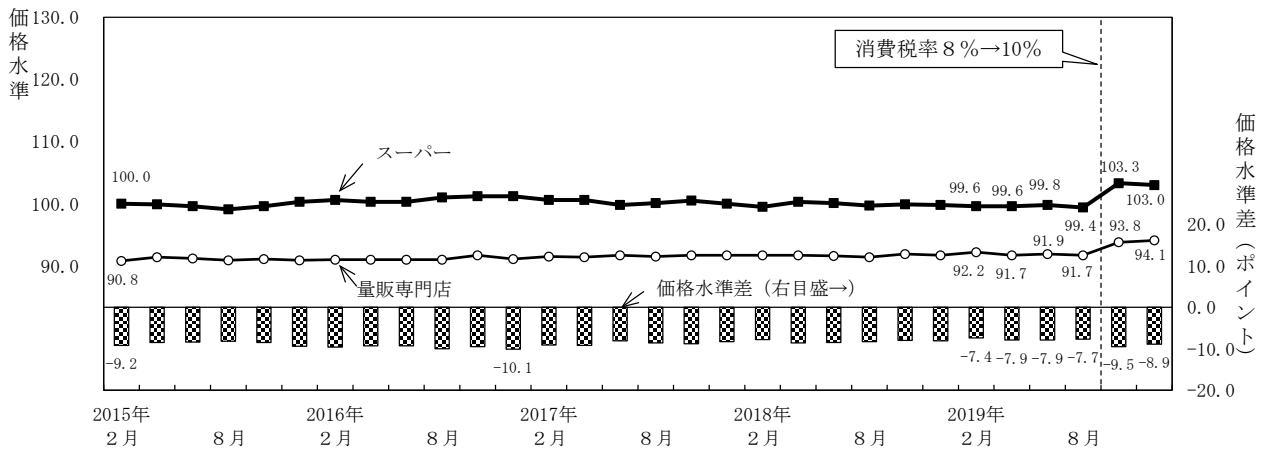
<洗濯用洗剤>

(2015年2月のスーパーの平均価格=100)



<ドリンク剤>

(2015年2月のスーパーの平均価格=100)



<生理用ナプキン>

(2018年2月のスーパーの平均価格=100)

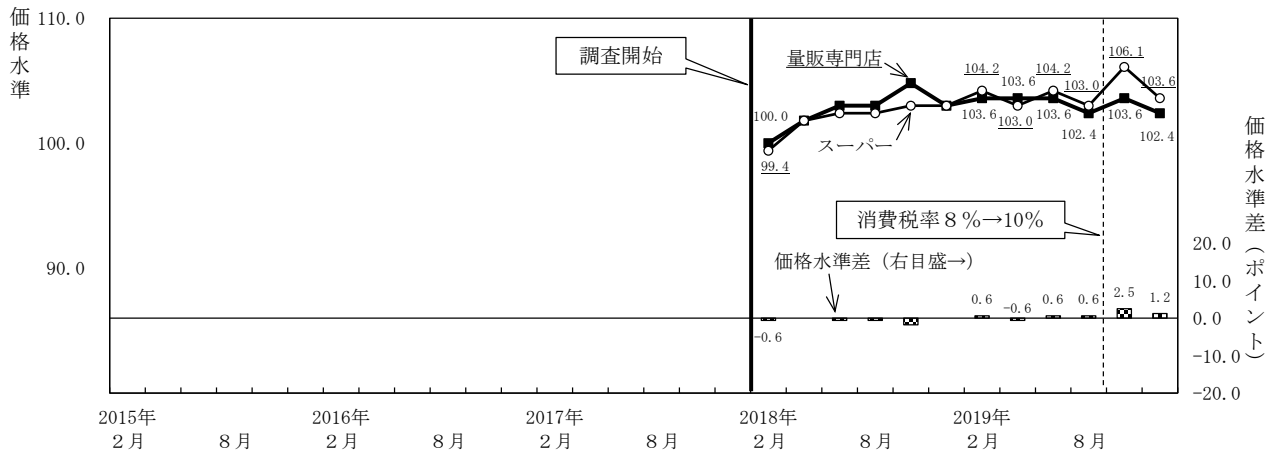
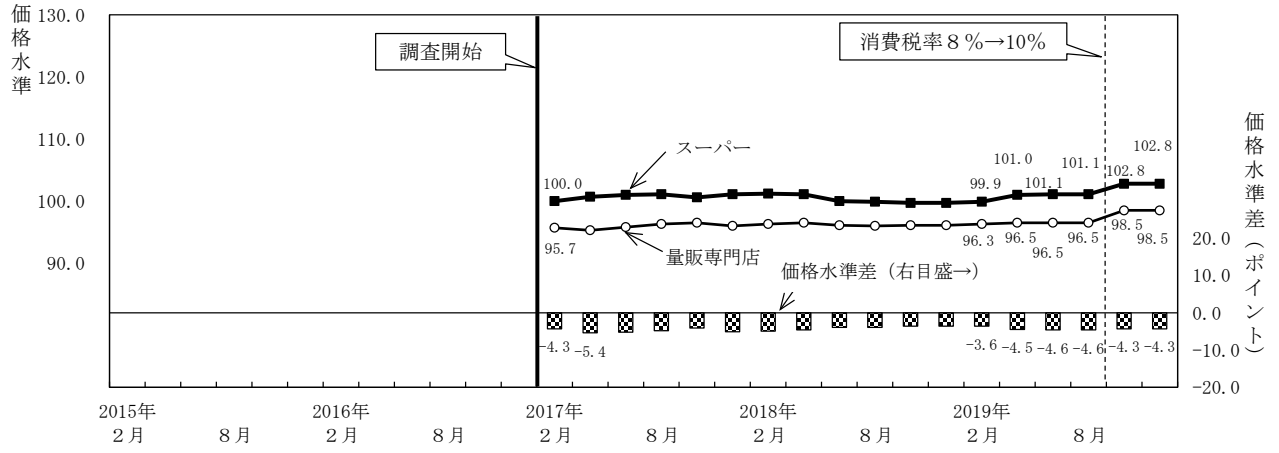


図 2 - 8 調査対象 5 品目の店舗形態別価格の動き (続き)

< 整髪料 >

(2017年2月のスーパーの平均価格=100)

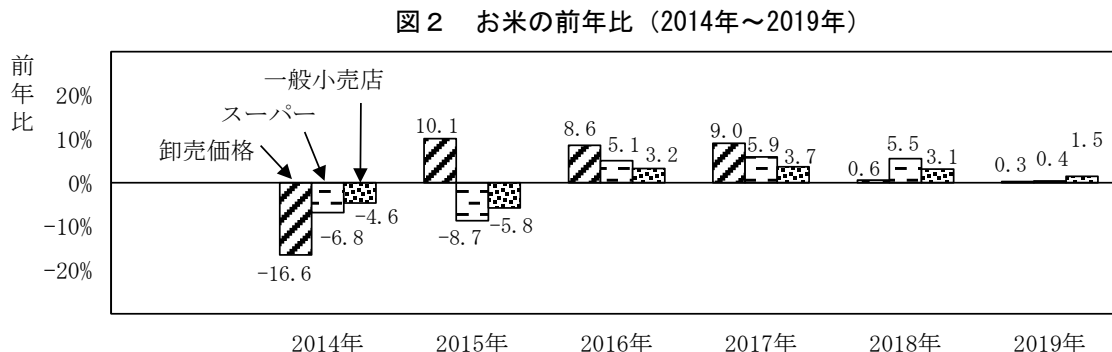
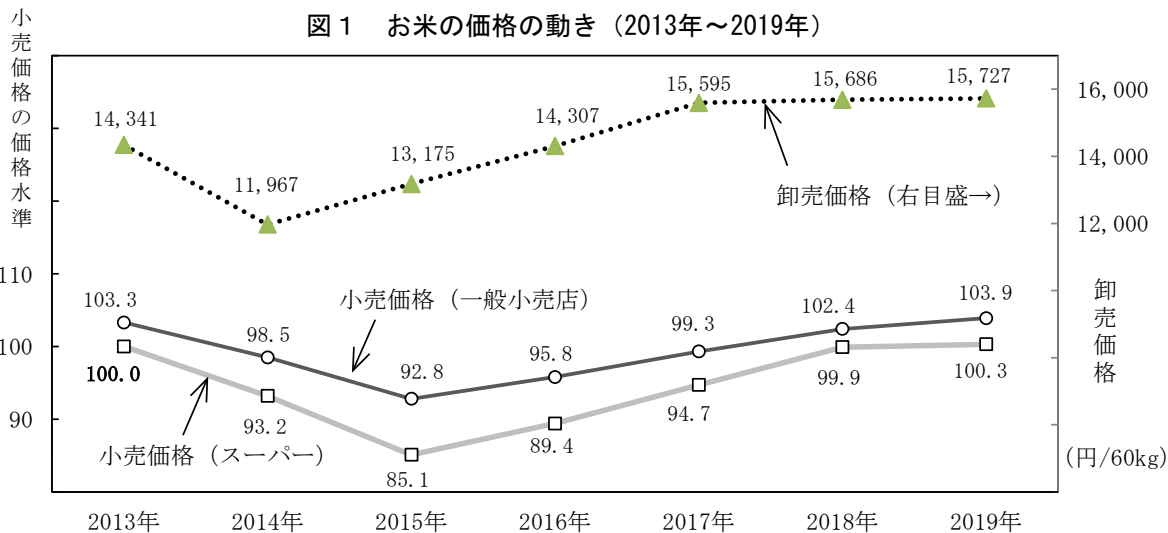


【構造編コラム3】「うるち米」の価格 ～スーパーと一般小売店の比較～

「第1節 スーパーと一般小売店の比較」においても説明したとおり、2019年はスーパーと一般小売店との間で「うるち米」の価格水準差が拡大しました。

今回は、小売物価統計調査（構造編）を開始した2013年から現在に至るまでの「うるち米」の価格について、店舗形態の違いによる水準差をみるとともに、卸売価格との比較を行います。

図1は、「うるち米」の小売価格（スーパーと一般小売店（お米屋さんなど））と、お米の卸売価格（出荷業者と卸売業者等間の取引価格）の推移を見たものです。また、図2は前年比を示しています。



出典：「小売物価統計調査（構造編）」（総務省統計局）、「米をめぐる関係資料（令和元年11月）」（農林水産省）

- ※ 小売価格は、「うるち米（コシヒカリを除く単一品種）」の全都道府県庁所在都市の年平均価格について、2013年のスーパーを100とした小売価格の価格水準。店舗形態別に各年の平均価格を指数化したもの。
- ※ 卸売価格は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の生産年価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）。また、年次は米の収穫時期（前年11月1日から当年10月31日までの1年間）を基準にした生産年である。

価格の推移を見てみると、スーパー、一般小売店の価格水準は共に、卸売価格から1年遅れて動いていることがわかります。店頭に出回るお米は、秋に収穫されその年のうちに精米・包装された「新米」よりも、前年に収穫されたお米の方が多く状況が表れていると考えられます。

価格の前年比をみてみると、2017年までは卸売価格と比べて、スーパー、一般小売店両方とも、変化が緩やかになっています。実際2015年から2017年にかけて、卸売価格が年々10%近く上昇してきたのに対し、スーパー、一般小売店における価格はそれほど値上がりしてないようです。

スーパーと一般小売店を比べると、2013年から2015年にかけて、価格の下落とともに価格差が拡大してきましたが、2015年から2018年にかけては、価格の上昇とともに価格差は縮小し、ほぼ価格差がなくなりました。2019年になると、再び価格差が拡大しています。店舗形態によって、小売価格の水準だけでなく、卸売価格の変化に対する反応度合いにも違いがあるようです。